

目次

はじめに

1	経済成長に憑かれた 20 世紀	1
1.1	20 世紀とはなんであったか	2
1.2	世界人口の異常な増加	6
1.3	危機を招く南北格差	16
	「地球環境」概念の誕生とその発展過程——体験的環境外交論	27
1	はじめに——3 度目の環境ブーム	27
2	「公害」から「環境」へ	29
3	ストックホルム会議前の国連	30
4	スウェーデンの先駆的役割	33
5	ストックホルム会議とその歴史的意義	35
6	UNEP 誕生と石油危機の後遺症	39
7	「環境と開発」から「持続可能な開発」へ	41
8	地球環境保全のためのコスト	42
9	日本の環境国際協力のあり方	45
10	むすび——「かけがえのない地球」の真の意味	48
2	アジェンダ 21 と各種国際機関・先進国の役割	53
2.1	アジェンダ 21	54
2.2	アジェンダ 21 と持続可能な開発委員会 (CSD)	63
2.3	国連環境計画 (UNEP)	68
2.4	FAO, WHO など国連専門機関	71
2.5	国際開発金融機関	74

2.6	締約国会議，条約事務局の果たす役割	77
2.7	国際的 NGOs	77
2.8	「共通だが差異のある責任」と先進国の役割	78
3	「持続可能な発展」という概念	87
3.1	「持続可能な発展」を巡る議論	88
3.2	環境基本法の理念	94
3.3	持続可能な発展の計測手法	97
3.4	持続可能な発展の指標の事例	107
3.5	持続可能な発展の指標に関する課題と展望	122
4	持続可能な社会構築に必要な価値観や制度の転換	127
4.1	危機の本質に何があるか	128
4.2	21世紀に向けて転換すべきこと	132
4.3	有限な地球で生きる知恵	135
4.4	「制度」転換の例示	138
4.5	求められる循環社会	142
5	持続可能な社会をつくる主体	149
5.1	持続可能な社会をつくる多様な主体	150
5.2	非政府組織(NGO)の役割	152
5.3	産業界の役割	163
5.4	地方自治体の役割	175
5.5	建設的パートナーシップの形成に向けて	181
6	持続可能な社会システムの構築	185
6.1	いまなぜ持続可能な社会なのか	186
6.2	地球環境問題の現状と将来は	186
6.3	対応とその困難さ	189
6.4	現状をもたらした歴史的背景	195

6.5 今日の問題とその改変の方向	200
6.6 21世紀の持続的社會像	216
索引	225